

第23回 ちゅうでん教育振興助成（2023年度）

小・中学校の部 報告書資料

| | |
|---|---------------------------|
| 学校名・団体名 | 津市立東橋内中学校 |
| コース | 学校支援コース |
| 活動・研究のテーマ | すべての生徒の「安心」な居場所となる人権文化の創造 |
| <p>〈活動・研究の意義および活動報告〉</p> <p>1. 活動に至る経緯</p> <p>本校には全校生徒の約60%にあたる外国につながる生徒が在籍している。多様な考えや価値観があつまる本校では、ひとつの教室の中に、さまざまな人種、慣習、言語を持つ生徒がいる。また、性的マイノリティも近年増加傾向にある。一方、ここ数年間の新型コロナウイルス感染症の感染拡大による外国人労働者の雇止めや派遣切りを原因とする貧困が日々の生活を困窮し、遠くまで働きに出る保護者に代わって家のことを肩代わりすることを余儀なくされ、家事育児を分担している生徒もいる。日々の暮らしで精一杯で、学習に集中できず、安心して学校生活を送ることができていない。このような状況にある子どもたちの自己肯定感を高め、将来への展望を持ち主体的に生き生きとした学校生活を送らせたいと考えている。</p> <p>2. 活動・研究の目的</p> <p>このような状況の中、英語スピーチ、人権作文などの自己開示・自己表現をする取組を通して、お互いの考えや気持ちを交流し価値観の違いを理解することにより、安心して過ごせる居場所を創れる生徒を育成する。また、個々の生徒が、自分のよさや可能性を認識するとともに、外国にルーツを持つ生徒や性的マイノリティの生徒だけでなく、あらゆる他者を価値のある存在として尊重し、多様な人々と協働しながら主体的に学校生活をおくる生徒を育むことをねらいとする。</p> <p>また、ICT機器やデジタル教材の駆使やペアワークでの学び合いを通して、授業のUD化を図り、外国にルーツを持つ生徒だけではなく、すべての生徒にとってわかりやすい授業を構築する。また、プレゼンテーションツールやスケッチブックを活用して、自己表現する機会をたくさん設けることにより、お互いの気持ちや意見を伝え合うことで、文化や言語が異なっても、安心して学校生活を送れるように、心の居場所づくりを行う。</p> <p>3. 活動内容</p> <p>①人権文化を育む取り組み</p> <p>◇自己開示（学級（学年）開き→綴る）【4月】</p> <p>担任が学級開きで自身の生活背景等や自身の生き方について語った。その後、学年集会で学年の副担任も生活背景等について語り、学年の教師集団が何を大切にしているかを伝えた。</p> <p>◇人権作文（自分や自分の周りのことについて考える）【7月】</p> <p>自分のことや自分の身の回りにある偏見や差別についてじっくり考え、日頃考えていること、感じていることについて、作文に綴った。その過程においては、担任との話し込みを重ねた。何人かの生徒は、学年集会で発表し仲間に自分の思いを発信した。また、各学年数点を全国中学生人権作文コンテストに応募した。1年生2名が三重県審査において優秀賞を獲得し、終業式や地域の教育講演会の場で発表した。</p> <p>◇英語スピーチコンテスト【7～10月】</p> <p>人権作文をもとに、英語スピーチを作成し、多くの生徒が英語スピーチコンテストにし出場し、自分の考えを多くの人に発信した。第14回津市長杯セントヨゼフ女子学園英語スピーチコンテストでは、審査委員特別賞および2位を受賞した。高円宮杯第75回全日本中学校英語弁論大会三重県大会においては2名が優秀賞を受賞した。10月の文化祭においてもスピーチ発表を行い、</p> | |

保護者や全校生徒に思いを語った。

◇東中文化祭（ダンス、英語スピーチ、和太鼓、演劇、吹奏楽発表など）【10月】

4月から取り組んできたことの間発表の場として、10月28日に実施した文化祭でさまざまな発表を行った。津市リージョンプラザお城ホールを借用し、地域や保護者にも公開し人権文化についての発表を行った。ダンス、英語スピーチ、和太鼓、演劇、吹奏楽発表では培ってきた表現力を十分に発揮した素晴らしい発表となった。自己表現ではあるが、話し合いや練習を重ねて、お互いを尊重しあい、一つのまとまったパフォーマンスとすることができた。



◇敬和地区人権フォーラム（小6と中2）【12月】

校内人権フォーラムをベースにして、2年生が隣接している小学校6年生と人権作文をもとに話し合った。今年度は「言葉」についてグループ討議と全体交流を行った。自分の経験を語る仲間の思いにふれ、自身のこれまでの言動を振り返る生徒も多くいた。日頃から自分たちの発する言葉の影響について考えることができた。

◇「語る会」に向けての取組【3月】

3月にそれぞれの学年ごとに「語る会」を行った。これまでの様々な活動や学習から自身の家族のこと、自分の仲間へのかかわり方について「学年のみんなに伝えておきたいこと」、「この1年（3年間）間で思ったこと、感じたこと」、「おうちのこと」、「友だちに感謝していること」などを自分の言葉で発表した。仲間の語りを受け、多くの返しもあり相互の理解を深めることができた。



② 自己表現を高める取り組み【通年】

◇授業での取組

学活、道徳、総合的な学習の時間において、学校・生徒会行事での振り返りをする際は、スピーチやプレゼンテーションなど自己表現活動を通して、行事の取り組みや経過で学んだこと、友だちの良い部分などを交流しあうことで、自尊感情を高め、他者を尊重する気持ちを養う。

◇レジリエンス教育

VUCAな時代にさまざまな困難に出会うことがあるが、それらを自分の力や他人からの援助を受けながら、主体的に乗り越える力を培うことを目的に1年生でレジリエンス教育に取り組んだ。この取り組みを通して、困難に直面した時にそれを乗り越える力の育成を今後も進めていきたい。

③ 授業のUD化 【通年】

ペアワークをどの教科でも多く取入れ、日本語が得意な生徒が不得意な外国語籍生徒に難解な現象や専門用語を母語で伝えたり、学んだことを還流することから学びを深める授業改善に全校で取り組んだ。社会、理科などでは難解な語句が登場するため、ICT機器を活用し写真や映像を提示し、外国籍生徒をはじめ多くの生徒にとって、授業内容の理解が進むような授業を行った。



4. 子どもたちへの効果（成果と課題）

自己肯定感が低いことが本校の長年の課題であった。ここ数年、さまざまな表現活動に取り組み緊張感のある中で成功体験を積ませることを大切にでききともあり少しずつではあるが改善傾向にある。また、GIGAスクール構想によりタブレット端末が整備されICT機器やデジタル教材の活用が大きく進んだことにより、よりわかりやすい授業づくりが進んでいる。今年度はペア学習を多く取入れ、人に伝えることを通して自身の学びを深めることに重点を置いた授業改善を進めた。生徒アンケートでは、約85%の生徒が「自分たちの間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、広げたりすることができていると思う。」の設問に対して肯定的な回答をしている。今後もこの取り組みを深化させ、深い学びにつながる授業改善を進めていきたいと考えている。また、生徒の主体性を高めるため、フランクリン・コヴィ・エデュケーション・ジャパン社から講師を招き「7つの習慣」についての教職員研修を実施した。

「語り合い」では、まず、教員も本音で子どもに語ることを大切にしてい取り組んだ。1年間の様々な仲間との関りから、3月の「語り合い」では、多くの生徒から自身の家族のこと、自身の今後の生き方についての思いを聴くことができた。今後もこの取り組みを大切に、すべての生徒にとって安心な居場所となる学校づくりを進めていきたいと考えている。